

武蔵野市
中高生世代ワークショップ

Teens ムサカツ

令和6年度

武蔵野市 中高生世代ワークショップ「Teensムサカツ」

“こんなまちになったらいいな”を市政に

提言まとめ



まちを知ること、様々な人の意見を聴くこと、そして自分はどんなまちに住みたいのかを考えること。加えて自分たちが直にテーマに向き合うアクションを取り入れて今年度のプログラムを実施しました。限られた活動時間の中で様々な要素を詰め込むことは私たち運営側にとっても、中高生世代の参加者たちにとっても大きなチャレンジでした。この冊子はそんな取り組みの「もがき」とそこから生まれた願いや想いである「市政提案」をまとめたものです。

市政に関わる方に限らず、より多くの市民の皆さんにTeens ムサカツの「声」を届けることで、今はまだ小さいかもしれない子ども・若者の社会参加の機会が市内各所に広がるきっかけになることを願っています。

もくじ

はじめに	3
Teens ムサカツとは?	4
まずはやってみた アクション	6
提言まとめ	8
ムサカツを通じた参加者のつぶやき	14
提案会に参加してくれた大人の声	15
グループファシリテーターの振り返り	16
ムサカツ参加者の振り返り	17
おわりに	18

所属の記事は令和7年3月時点のものです。また、冊子内の記載内容については、一部表現方法などを変更していますが、参加者の声になるべくそのまま使用しています。分かりにくい記載があるかもしれませんが、ご了承ください。

Teens ムサカツとは？

Teens ムサカツは、「武蔵野市について(ムサ)、語って(カ)、つながる(ツ)」をコンセプトにした、中高生世代対象のワークショップです。若者世代が武蔵野市について関心を持ったり、自分たちの世代向けの事業について提言を行ったりできる場をつくり、中高生世代の声を市政に届けることを目的としています。

令和6年度の年間テーマは、「『こんなまちになったらいい』を市政に」。全6回の活動では、まちに出てフィールドワークを行ったり、そこで感じた課題や願いをもとに実際に小さなアクションに取り組んだりしました。活動を通してお互いの仲も深まっていく中で、参加者それぞれが感じていること、考えていることがたくさん聴かれるようになりました。最終的には、3つのテーマ(自習する場、中高生主体の活動づくり、地域との接点)に分かれて市政への提案づくり。最終回の市政提案会では自分たちの想いや実現へのアイデアを市に伝えました。

令和6年度テーマ こんなまちになったらいいな

1 お互いを知る

アイスブレイクやインタビュー講座を通じて参加者同士が知り合う機会を作りを行いながら、第2回で実施するフィールドワークに関わる基礎情報の確認や市政の取り組みを共有する時間を設けました。

2 場所、人と出会う

3グループに分かれてフィールドワークを実施し、市内各所で施設見学やゲスト講話を行いました。施設や取り組みの実際を知ることで在学の参加者に多い「市内情報の知識不足」についても一定の補完を行うことができました。

3 課題や興味と向き合う

各テーマから6グループに分かれてそれぞれの問題意識や興味関心をベースに自分たちで「アクション」を考えました。実施目的やアクションの内容、必要な資源を考えながら企画書を作成しました。

4 自ら動き、気づきを得る

交流やアンケート調査などそれぞれが企画したアクションを行いました。「自分たち自身が動いてみて得られた変化や難しさ」を体感しながら、参加者同士の関係性が提案作りに向けてより深まる機会になりました。

5 提案を作る

アクションを終え、提案を作成するためのグループを再構成しました。役割分担しながら提案を作成するプロセスにおいて個々が提案について考え制作物に取り組むことで、最終回の活発な意見交換に繋がりました。

6 提案する、伝えあう

各グループの提案を市長・教育部長・提案に関わる行政関係者の方々に伝える機会をつくりました。さらに提案内容を深めていく対話の場を設け、参加者と大人がコミュニケーションを取ることができるようになりました。

参加者情報

対象者

武蔵野市在住 または
在学の中高生世代

参加人数

32人／定員30人程度

中学生世代：12名、高校生世代20名
在住・在学の比率は約半数ずつ
過去のムサカツ事業参加者：7名

運営団体

武蔵野市の委託を受け、「NPO法人文化学習協同ネットワーク」がプログラムの企画運営を行いました。私たちは、高校生までの学習支援や様々な年代を対象とした居場所の運営、若者の就労支援事業などを通じて「自分らしく輝くために、学ぶ力を育てる、働く力を身に付ける」ことを応援している団体です。



グループファシリテーター



ムサカツの運営を行う際に、参加者の皆さんが取り組むワークを円滑に進めていくために「グループファシリテーター」という存在がいます。参加者の皆さんと比較的年齢に近い、大学生を中心としたグループファシリテーターがななめの関係性の中で、参加者の皆さんの様々な発言、気づきを支え、活動をサポートします。



まずはやってみた！ アクション

今年度のムサカツでは、フィールドワークや話し合いで見えてきた「自分たちの願い」や「まちの課題」に対して、「自分たちで動いてみる」ことに挑戦しました。6チームに分かれて実施した「アクション」の様子を紹介します！



Study Oasis

吉祥寺北コミュニティセンター・武蔵野プレイスB2フロア

「自習する場が欲しい」という願いを市政に伝えるにあたって、「この願いはムサカツメンバーだけでなく、他の中高生世代にとっても同じ願いなんだろうか？」という疑問が生まれ、同世代の声を拾うためにアンケートを実施しました。アンケートは、自分たちで項目を考えてオンラインフォームを作成。武蔵野プレイスや自分の学校でチラシを配布して、約3週間で500件以上の回答を集めることができました。



ハッピー?ラッキー!?クッキー!!!

～多世代交流しよう～

吉祥寺北コミュニティセンター

「いろんな人とコミュニケーションをとれるようになりたい」「ご近所さんに関わる機会がない」などの声から、地域のいろいろな年代の人と交流することを目的としたクッキー作りの企画を考えました。当日は3組の親子連れが参加してくれて、みんなでクッキーを作って食べた後は、準備したゲームで交流も深め、小さい子どもたちもとても楽しそうに参加してくれました。



バレンタイン大作戦

武蔵野プレイスB2フロア「クラフトスタジオ」

多くの青少年が利用する武蔵野プレイス B2 フロアの中で、「スタジオ施設」はあまり利用されていないことを知りました。そこで、もっと知ってもらえるように、クラフトスタジオを使ってお菓子作りを企画。当日は、同世代の参加者と一緒にお菓子作りを行い交流しました。参加者からは「プレイスは知っていてもスタジオのことは知らなかった」との声も聞かれ、楽しみながら魅力を伝えることができました。



地域食堂 お手伝い計画

グリーンパーク商店街 MIDOLINO_・「ウチクの多い料理店」

「地域食堂ってどんなところ？」という疑問から、地域食堂を「内側」から知るために運営のお手伝いに参加しました。当日は、清掃や案内板の設置、来店した方の案内、配膳などの作業を行い、利用し始めたキッカケなどについてアンケート調査も実施しました。直接お客さんと話せる機会は少なかったですが、家族ぐるみでの利用が多いことなど、地域に根付いたコミュニティとなっていることを知る機会になりました。



カジュアルムサカツ

吉祥寺北コミュニティセンター

「自分の将来や夢について大人と気軽に話してみたい」という願いから、社会人と大学生に来てもらって、おしゃべりをする企画を行いました。社会人の方への声掛けは、ボランティアセンター武蔵野を通じて自分たちで行いました。お仕事や地域活動のお話だけでなく、ムサカツの提言活動にもアイデアをもらえた一方で、振り返りではもっと「カジュアル」にできればよかったという声も出ました。

NEXT PAGE!

やってみてどんなことに気づいた？自分たちが思う「こんなまちになったらいいな」を実現するには何が必要？…アクションの振り返りをもとに、市政提案は「自習する場」「中高生主体の活動づくり」「地域との接点」という3つのテーマで行いました！



ボードゲーム de あそぼ!!! feat. 美しきイルミネーション!!!!!!

グリーンパーク商店街

商店街に若者を中心にもっと人が集まる仕掛けを作りたいという思いから、グリーンパーク商店街で子どもたちの遊び場を運営しました。また、少しでも通行人の目に留まるように、キャンドルをお借りして装飾も行いました。近くの地域食堂を利用する小学生やその保護者の方を中心に、予想以上に多くの方とボードゲームやビンゴで交流することができた一方で、普段商店街を利用しない方への働きかけには課題も残りました。



自習する場

“勉学に励む人を 応援するまち”に なったらいいな

活動が始まってから常に中高生たちの中から出てきていた「勉強(自習)する場がほしい」という願い。今回はより広く中高生世代の声を集めるためムサカツの枠を飛び越え、参加者が通う学校や武蔵野プレイスでアンケートを実施しました。中高生たちが「自習する場」に求めていることは多様にあり、アンケートから浮かび上がってきたリアルな声をまとめました。

実現に向けたアイデア

モチベーション向上に向けた 仲間の募集

勉強へのモチベーションを向上させるために同じ目的を持つ仲間が集う場を増やしたいです。また、ボランティアを募集し、わからないところを理解するまで教えてもらいたいです。

自習マップの作成

市内にある自習室の情報(数や場所)をまずは知ってもらう必要があると思います。そのために、より多くの人が情報にアクセスできるようにアプリ等の媒体もあると望ましいです。

集中できる環境の整備

家や学校では集中して勉強できないメンバーもいるため、「パーテーションの設置」「BGMを流す効果の検証」等の工夫を行い、誰もが集中して勉強できる環境を作りたいです。



中高生世代が自習する場が欲しい

フィールドワーク

実は知らなかった新たな‘魅力’を再発見！

「あそぶ・まなぶ」をテーマに武蔵野プレイスでフィールドワークを行いました。中高生にとってプレイスといえば「地下2階にあるスタジオラウンジを知っている、あるいは使ったことがある」という方が大多数を占めています。この日はラウンジ以外の3つのスタジオ(クラフト・パフォーマンス・サウンド)も見学し、スタジオの存在や利用方法については参加者たちから「知らなかった」という声が聞かれました。また、見学後には青少年施設としての成り立ちや抱えている課題についても話を聞きました。



提言へのコメント

- ・「静かなスペース」「少しにぎやかなスペース」など、中高生にはいろいろなニーズがあると聞いた。その日の気分によっても「居たい場所」がかわると思う。
- ・自習室のあるコミセンが一元化されているよりもマップに落とし込めた方が視覚的にわかりやすい。ファミレスなど中高生支援を打ち出している企業の情報もマップに記載したらどうか。
- ・マップについては、中高生の協力があればできそうだと思う。ただし、情報発信するためのツールについてはよく考える必要がある(ここは大人の力が必要)。
- ・自習室については、公共施設などの利用が「今日この時されていない」というタイミングで開放するなどの取り組みがあると面白い。
- ・「勉強を教えてくれる人」については、市内の大学の教育学部や保育学科と連携し、学生を集めることができそう。
- ・学習支援をしたい人が実践できる場を提供できます(地域食堂にて)。
- ・(教材について)問題集などは、現在寄贈している古本と同様に呼びかければ集まると思うので、コミセンの運営委員会で議題に出してみようと思う。

市長・教育部長からのコメント

「勉強がしたい」その一方で「休みたい」というワードもありました。場所によってメリハリをつけることが今の皆さんの感覚ならば、家と勉強する場所は別々でもいいのかなと実感しました。現在、市内のコミセン全てに自習室があります。今後コミセンとよく話し合いをして、中高生の皆さんの様々な要望を伝えたいと思います。より皆さんが勉強しやすく、休むときはしっかり休むことができる空間作りをやっていかねばいけないなと思いました。

小美濃市長

真柳教育部長

中高生主体の活動づくり “中高生の思いを 実現できるまち”に なったらいいな

今回は、フィールドワークに加えて、中高生自身がアクションも実施しました。商店街やコミセンといったこれまであまり接点がなかった“地域社会”への参加を通して、中高生世代の自分たちが街づくりに積極的に関わっていくことの必要性を感じました。また、自分たちで動いてみる経験をしたことで見えてきた課題も含めて提言を考えました。



実現に向けたアイデア

動き出すためのきっかけ(場)

学校の枠組みを超えて、「何かを一緒にやりたい」「アイデアを一緒に考えたい」中高生が集まる場所が欲しいです。

伴走してくれる大人の存在

新しい企画を0から創造することは探求心を深め、自分自身の成長にもつながりますが、中高生だけで全てを実施することは難しく、メンター等仲介する人が必要です。

活動づくりに対するサポートの充実

イベント会場の提供、運営費の補助、スキル向上のための研修の実施、市政・ポスターSNSを活用した広報活動など思いを実現するサポートを充実させたいです。



自分たちがほしい場・
必要な場を中高生主体でつくりたい

フィールドワーク

‘駅前’ではない商店街で働く大人に出会い、 実情を知ろう！

普段商店街を使う機会が少ないメンバーたちが「そもそも商店街は必要なのか？」という疑問を持って訪れたのはグリーンパーク商店街。商店街が賑わっていると活気があるイメージはある…そもそも人通りの少ない駅から離れた場所に人が訪れる余地はあるのか…そんな拭いきれない疑問とともに始まったフィールドワークは、「個性のあるお店が持つ特別感」「商いは会話」など馴染みのない言葉も含め様々なお話を通じて、さらにモヤモヤが深まったり新鮮味を感じたり、多様な感想を得る機会になりました。



提言へのコメント

- きっかけ(入り口)は「リアル」で、皆で企画力をアップしていく講座などからだに参加しやすいなどとても参考になりました。
- 「Teensムサカツ」の枠組み、プラットフォームをどう継続するか。自走するには？
- 身近な商店街で、イベントや周知の企画を、中高生の皆さんから出してもらって、まちの人と一緒にしてくれる
- 場所について、中学生がコミセンの部屋を借りることができないと聞いて、中学生でも借りられるようにするか、中学生限定の部屋を設けるかする必要を感じた。
- 中高生の意見を活かすためには、窓口をわかりやすくすることが大切。
- 学校以外に、学校外の人たちと関われる機会を作ることは、特に現代

では必要。「学校生活」がうまくいかなかったり、悩んだりした際に、「学校」以外にも所属する場、人とながれる場があると、引きこもり予防にもつながるのではないかな。

市長・教育部長からのコメント

中高生の思いを実現できるまちになったらいなという提案でした。こうして集まってアイデアを出すということは本当に大事なことでと思いますし、若者を集めるというキーワードもあったと思います。この提案はTeensムサカツでもできるかなと思いました。そんな質問をブリスを周ったときにさせていただきましたが、「まちづくり」というテーマがあるムサカツではなく、「ゼロベースで考えたい」という回答でした。それであれば、このTeensムサカツを応用し、形を変えていくこともできるのかなということを感じました。

真柳教育部長

自分たちの自己実現、自己成長を促すことが最終目標だったのかなと思っています。それはゼロから作り上げる好奇心を養うことや、主体的に自分たちが行動すること、多様な人たちと交流することによって自分を成長させたいということだということが伝わってきました。ムサカツもそうなのかもしれませんが、地域の中高生を中心にプラットフォームを作っていくことが皆さんの考える到達点なのかなと思います。お金のかかる話ではないので市としてもできる限りのことは支援していきたいと思っています。

小美濃市長



地域との接点

“人と人が近いまち” になったらいいな

フィールドワークや自分たちで行ったアクションを通して人と交流し、自分たちにはない新しい視点を手に入れたり、思いがけない発見がありました。その一方で、乳幼児や親子向け、高齢者向けのイベントが多く、中高生世代向けのイベントが少ないことも知りました。中高生世代が地域に参加していくためにしてほしいことを、「広報」と「イベント」に分けて整理しました。

実現に向けたアイデア

SNSを活用した広報

市内で行われている既存のイベントに中高生が参加しやすくなるように、市報の活用やX・Instagram等のSNSを利用した広報を行ってほしいです。

中高生も興味持ちそうなイベントの実施

年齢・性別等を固定せず、中高生世代を含む幅広い世代が参加できるイベント(スポーツ観戦・ゲーム大会・ダンス・カラオケ大会など)を企画してほしいです。

中高生が参加しやすいポイントの整理

参加費の有無、開催される場所、イベントの雰囲気、参加する年齢層、友人と参加することの可否など中高生が参加しやすくなる要素を整理して伝えてほしいです。



地域のいろいろな年代の人と出会いたい。
地域活動に参加したい。

フィールドワーク

“ちいき”ってどこのこと？ どんな人がどんな活動をしているの？

「地域活動」を最初の入口とした参加者たちは、吉祥寺北コミュニティセンターの運営委員を担う大学生と、青少協桜野地区の方からお話を伺いました。地域との接点が幼少期と比べて少ない中で、これまで自分が参加してきたイベント等の「運営側」を担う機会の存在やそこで得られる面白さや可能性、子どもの頃に地域で遊んだ思い出やロビーでの勉強などがキッカケに関わるようになったエピソードなどを聞きながら、これまで漠然と捉えていた「地域」について具体的なイメージとともに語ることができるようになったフィールドワークでした。



提言へのコメント

- ・ 広報についてはSNS(中高生版)は実現できそう。でも運営にも中高生が関わる仕組みづくりが必要だし、中高生の想いも大切!
- ・ 堅苦しくない、雰囲気などがわかる広報(参加者の孤立を防ぐ)→参加しやすくなる、というのは「なるほど」と思いました。
- ・ 幅広い世代の人を集めても、結局は同世代でかたまってしまわないのでは、

とと思っていたが、「同じジャンルの話題でも世代によって知っていることが違う」という意見が印象的だった。

・ 今ある地域のイベントに、中高生が参加できる「関わりしろ」を増やしていくだけで成立をすると思います。

・ ワードワulfなどのゲームがあると話しやすい→場所や大人を集めるのは市、運営は中高生に任せてほ

しい、という気持ち心が強かったです。

・ 中高生向けのイベントは市として足りないところと思った。行政が入るとつまらなくなるので、中高生の皆さんで企画して、各コミュニティ協議会に提案し、実現することにより、自己の成長やコミュニティづくりにつながる。

市長・教育部長からのコメント

カラオケや編み物をしながら人と話など、中高生向けのイベントがほしいという提案でした。それに対して「市ではなく、皆さんで作ってみたいんですか」という、逆提案をさせていただきました。皆さん自身が作るイベントに多くの中高生の方々に参加をしてもらうことで、多様な人々との交流が生まれ、ゼロから想像する好奇心なども実現できるのではないかと思います。乳幼児や高齢者向けの市のイベントは数々あるけれど、中高生世代向けのイベントがないのではないかと、指摘もありました。そうかもしれないと少し反省もしています。

人と人が近いまちというキーワードを出されていました。その背景は、SNSではなく、やはり「リアル」を求めたいということ、SNSとリアルとのバランスが大切なのだと思いました。具体的には中高生世代に向けたイベントを実施してほしい、これが孤立も防ぐというお話で、スポーツ観戦や編み物などが挙がっていましたが、このムサカツも中高生が集まってきたイベントです。ムサカツはまちづくりの提案ということで実施しておりますが、さらに何か楽しむ目的を持った集まりにしていく、そんな応用形もできるのではないかと思います。

真柳教育部長

小美濃市長

ムサカツを通じた 参加者のつぶやき

コミュニティセンターへの願い

コミセンが暗くて入りづらい。
順番に改装工事が行われて「明るく」、
内装も「白く」なると行きやすい。

小中学生も部屋を予約できる
ようにしてほしい!

小中学生が使える時間を
遅くまでにしてほしい!

部屋をネット予約できたらいいな

商店街でも自然(木や花)が
あると落ち着く

結局私たちの世代は
何したらいいの?

商店街は歩き疲れるから
ベンチなどの椅子がほしい

中高生世代向けのイベントやお店があるといい。
お店を開くには市からの補助金などがあれば
一歩踏み出せない人の手助けになる。

常に多くの店(明るさ)がないと、
治安に対しての不安感を覚える。

利便性<ワクワク感!
特に用事がある訳じゃなくとも
ふらっと寄っているいろいろ見れるから
楽しいと思う。

商店街への願い

ムサカツみたいに、初対面の人と
ゲームをする機会があったらいい。

同じ夢を持っていた先輩の話を
聞いてみたい。大学生とか。

「気軽に人としゃべれる場」が
ほしい!同世代とも話したいし、
大人とも話したい。

農家さんとか社会に
必要不可欠な人のことを
知りたい。

同世代・大人と交流したい

提案会に 参加してくれた 大人の声



みんなで一緒に
より良いまちをつくりたい

内野さん
武蔵野市総合政策部
秘書広報課(広報担当)

どのチームの提案も前向きで新鮮。そして、
「市に〇〇してほしい」に留まらず、「自分た
ちが〇〇するのを市にも手伝ってほしい」と
いうものが多く、そのアクティブさにも素直に
感動しました。市政とは「市役所や市議会だ
けでなく、市民の皆さんと一緒に進めるもの」
だと改めて実感しました。皆さん、貴重な提
案ありがとうございました!



みなさんの声が
未来の社会を変える!!

鈴木さん
吉祥寺北コミュニティ協議会 代表

小中高生を取り巻く社会課題が増え続ける
昨今、「~だからできない」よりも、「できるた
めにどうすればいいか」をみなさんと一緒に
考え取り組んでいきたいと思っています。
未来の共生・共育・共創のためにも。失敗は
成功のもと。シンプル・イズ・ザ・ベスト!



中高生の想いと共に
武蔵野市の未来を
作っていききたい

佐々木さん
武蔵野市子ども家庭部
児童青少年課

「こんなまちになったらいいな」を一人一人
が真剣に考え、仲間と共にアクションを起こし、
限られた時間の中で想いや願いを提案とい
う形にしていくことは大変なことだったと思
います。中高生だからこその気持ち、大人
だけでは気づかないことに気づかされた貴
重な意見でした。これからも一緒によりよ
い武蔵野市を作っていけたら嬉しいです。



ムサカツの活動
お疲れ様でした。

矢澤さん
(公財)武蔵野文化生涯学習事業団
生涯学習事業部プレイス管理課
生涯学習支援係

12月のフィールドワークや1月のアクションと
皆さんの活動を見せてもらいました。皆さん
の自由な発想や武蔵野市をよりよくしていこ
うという気持ちが伝わりました。今回の提案
会を受け武蔵野プレイスでは、自習席を増や
す取り組みを行います。令和7年2月から3
階のスペースの一部を自習席として開放す
る日を設定します。ぜひご利用ください!

グループファシリテーターの振り返り／

今年度のムサカツを振り返っての全体的な感想として、中高生と一緒に「こんなまじになったらいいな」というテーマについて考えることができたことはいい経験になりました。日常生活の中で中高生と関わる機会自体も多くはないですが、それ以上に中高生が自分たちの暮らすまちについて感じていることについて話し合うことができ、機会減多にありません。今の時代の中高生が生活の中で何に満足し、何に満足していないかを会話をすることで知ることができました。ムサカツに携わったからこそ得ることのできた視点がありました。

また、私が関わっていたグループには中学2年生から高校3年生までのメンバーがいました。同じような想いをもつ中高生が自分たちの力で議論をする手助けもすることができよかったです。



りっちゃん
一橋大学大学院



りっちゃん
杏林大学

今回のムサカツは「こんな街になつたらいいな」がテーマでした。個人的にはかなり抽象的かつ難易度の高いテーマだったように思いますが、最終的な市政への提案内容や提案会での会話を振り返ると、それぞれが自分事として積極的にイベントに参加し、具体的な提案形成まで行え、充実した時間になったように思います。回によっては参加した学生の考えや気持ちの言語化過程や正確な理解に難しさを感じつつも、毎回深くまで会話を重ねていくことができました。他のボランティアで中高生と関わる場面はありますが、ムサカツほど会話に多くの時間を費やし、各々が考えていることを詳しく聞ける機会は現役大学生の私には貴重なものでした。ムサカツを通して関わった皆様へ、有意義な時間をありがとうございました。



ゆたぽん
上智大学

私は、全体を回すより個人個人と一対一で喋る方が向いていると思っていますので、今回のようなファシリテーターとしての役割は相当苦手としていたところでもありました。実際にファシリテーターをしてみて、いろんな背景を抱えて参加するメンバーがいる中で、グループ全体を回すことは難しいと感じました。自分と同じような感覚を持っている子だと話してもなんとなく伝わっている感覚もあったけど、全体を回すことは難しかったです。

しかし、今回ファシリテーターをやってみて自分の欠点を再認識することができました。自己肯定感が低く、弱みを見せることが嫌なので態度が大きくなっていることや、生意気な物言いをしてしまう部分を改めて認識することが出来たという意味では得られたものもあったと思います。

ムサカツ参加者の振り返り／

※参加者の振り返りシートより抜粋

- ムサカツに参加したことによって、違う学校だし、喋ったこともない仲間達と仲良くなれたし年齢が違うからこそ、もりあがれた気がする。ムサカツはもっとまじめだったりもっと皆がガリガリやってるイメージがあったけど、皆とわきあいあいでお菓子食べたり話したりできた。
- 今回は、同じチームの仲間とは仲良くなれたけれど、他のチームとは交流は少なかったから他チームのメンバーとももっと交流したいと思った。
- 今まで苦手だった人前での発表だったり、グループの中で自分の意見をいうことができた。
- 去年の参加では自分の考えをみんなに共有しきれなかったことが心残りだったので、今年は少しでも役に立てるように色々意見を出せたのではないかと思います。
- 私がムサカツに参加した目的は主に、コミュニケーション能力の向上である。親にすすめられたため、初めはあまりのりきではなかったが、皆と意見を交わしていくうちに、この企画に対して能動的になっていった。思っていたよりも皆話しやすく、ファシリテーターの方も同年代と同様に話すことができた。
- こうして一人一人が真剣に議題に向き合い、討論する時間は学校のグループワークとはまた違う新しい刺激となった。
- 『地域食堂お手伝い計画』では実際にはたらいてお客さんと接することができてとても学びになった。お客さんの話を聞いてみて、まず食堂への満足度の高さに衝撃を受けた。こんなにも人と人があたたかくつながれる場所があり、それをこのグリーンパーク商店街で終わらせてしまうのもったいないと強く思った。
- 本来、ムサカツにはあまり期待をしていなかったのですが、実際に参加して行った活動としてはとても自分のためになったと思います。ex) 商店街などについては考え方が180度変わりました。
- ムサカツに参加して一番楽しかったのはやはりアクションです。皆でわいわい小学生達とボードゲームやったり寒いくい縄とびしたり本当に楽しかった。
- (アクションでは) 社会福祉に関わる人と呼ぶことができたが、その時のプロセスも勉強になった。
- 参加する前は正直、地域社会についてあまり興味を持っておらず、コミュニティセンターの存在も知らない状態でした。しかし、参加してみると、やっていく中で現代の同年代の居場所が少ないことや、コミュニティセンターで色々な事ができることを知ったり、自分の意見したことを行動に移して、実現させることができるのだと知り、とても視野を広げることができました。
- 実際に活動できたアクションが心に残った。なぜならば自分の計画性と実行力を知ることができたから。しかし、時間がたらず、思うように人を集められなかったのは心残りだった。
- 実際に地域の人を呼んでアクションを行ったときには、参加者の方にもたくさん手助けしてもらって武蔵野市民の温かさを感じられた。
- 日常で関わる大人が教師の方々と親に限られている私たちでも市長と一対一で話すことができるのだと知れて嬉しかったです。
- 意見をまとめるのは難しいと感じた。全く正反対の意見があるときはどうするのが良いのかと思った。より多くの意見を使えばいいのか、少ない意見もくみいれるのか、くみいれるとしてもどうするのがいいのかが難しかった。
- 提案会で様々な方々にご意見いただき、その中で「これからやってみたいイベントを中高生で開催する」というアイデアをいただいたので、高校生になって時間ができたら自分が運営側に回ってみるのもありだなと思いました。
- 高校生の意見には夢が、大人の意見には現実味があり、様々な意見をもらい、自分自身の成長になったと思います。「伝える、意見を言う」という面では十分達成できたと思います。しかし、この発表やプレゼンテーションが目的化せず、あくまでも街の人からの声を実現するための「手段」になると良いなと思います。



「まずは自分たちで動いてみる」ことに挑戦した今年度のムサカツ。振り返りでは、「ムサカツみたいに同世代としゃべったり、集まってなにかやれる場がほしい」「思いがあってもきっかけがないと踏み出しづらい」という声も聞かれました。

おしゃべりしている中で自分の気持ちに気づいたり、仲間がいるから「じゃあやってみるか」と一歩踏みだせたり、自分とは異なる視点に出会い、ときには「どうしようか」と悩んだり、考えが深まったり… ムサカツの醍醐味の一つは、「30人ちょっとの同世代と出会い、一緒に活動をつくること」なのかもしれません。

私たちとしては、この冊子をきっかけに、「こんなことも気になるんだけど」「これってちょっとどうにかならないのかなあ」と、普段の日常の中で、中高生世代の声がたくさん聞かれるようになることを願っています。

令和6年度武蔵野市中高生世代ワークショップ「Teensムサカツ」
「“こんなまちになったらいいな”を市政に」提言まとめ

発行日 令和7年5月
発 行 特定非営利活動法人 文化学習協同ネットワーク
〒181-0013 東京都三鷹市下連雀1-14-3
TEL 0422-47-8706 / FAX 0422-47-8709

※ 本事業は特定非営利活動法人文化学習協同ネットワークが武蔵野市の委託を受けて実施しました。

一部資料提供:武蔵野市

未来をつくるプロジェクト

広報



願い

中高生で所(女子大)運営してみたい

未来

現状

利便性

多世代で楽しめる

イベントがたくさん

否定しないで

良いところ

環境

運営

職業を選ぶときに

意識して良かったと

思うことを聞きたい!

進路選択~

進路

課題意識

発行
特定非営利活動法人
文化学習協同ネットワーク